



「玲瓏」たる大栄中学校生徒の姿

9月11日(土)、予定していた運動会の全種目を終えることができました。今年も新型コロナウイルス感染防止対策として半日開催にするなど、様々な対応の検討を行い実施した運動会となりました。そのような中、多くの保護者、地域の皆様にお越しいただき無事終了することができました。ありがとうございました。

少ない演技種目ではありましたが、どの生徒も勝負にこだわりながらも、運動会を盛り上げよう、心に残る運動会にしようと楽しみながら、真剣に取り組む姿、仲間



を応援する姿に大栄中学校生徒のパワーや清々しさを感じました。まさに、生徒会スローガン「玲瓏」たる姿であったと思います。また、多くの生徒が達成感や充実感をもって終えることができたと感じています。

本番までの過程を大切にして各学年・クラスで育てた力は次に繋がります。運動会を通して学んだことを、これからの学校生活に活かし、さらに一人ひとりが玲瓏たる姿で輝いてほしいと思います。



新たな体制で臨む新人大会

10月1日(金)から新人大会が開催されます。県総体中部地区予選大会と同様に、残念ながら新型コロナウイルス感染防止対策として、大会規模や運営方法等の対応を行った大会となりますが、新チームでこれまで取り組んできたことをしっかり発揮し、大栄中学校生徒としての誇りを持って最後まで全力で戦ってほしいと思います。

【野 球：市営球場】1回戦 大栄中-河北中 ※北条中との合同チーム

【バレーボール：湯梨浜中体育館】予選リーグ 大栄中-赤碓中・東伯中の合同チーム

【バスケットボール：北条中体育館】1回戦 <女子>大栄中-倉吉東中 ※北条中、久米中との合同チーム

【ソフトテニス：倉吉市営コート】1回戦 大栄中-北条中

【卓 球：あやめ池スポセン】予選リーグ <男子>大栄中、倉吉東中、北条中

男女とも個人戦にエントリー

【バドミントン：大栄中体育館】男女とも個人戦のみ

【剣 道：倉東中体育館】予選リーグ <男子>大栄中、倉吉西中、河北中、湯梨浜学園

男女とも個人戦にエントリー

【柔 道】後日、顧問から連絡

中山さんありがとうございました！！

教員業務アシスタントとして昨年度からお世話になってきた中山 功一さんが、9月27日(月)、一身上の都合で退職されることとなりました。卓越した見識・技能で、本校教職員の多くの依頼を、いつも穏やかな笑顔で快く引き受けてくださるのみならず、常にスピーディーに期待以上の対応やサポートをしていただき、本校の業務改善に大きく貢献していただきました。



本当にありがとうございました。感謝の気持ちでいっぱいです。今後のご活躍を職員一同心から願っています。

些細なことにこそ

今年度の学校経営方針の取り組みの重点の一つに「当たり前前のレベルのさらなる向上」を挙げています。今年度は「さらなる」という言葉を追加しています。生徒に「当たり前前のレベルの向上」を言うばかりではいけません。小さなことですが、私自身は学校の男子トイレのスリッパを使用後には全て整えることを3年前から自分の当たり前前に追加しています。今年度は「さらなる」と付け加えたので、こっそり当たり前前のレベルを高めるべくやっていることもあります。

「当たり前前のレベルの向上」についての話は、私が学級担任時代にも再々話をした記憶があります。このフレーズにこだわっています。それは、「些細なことでも手を抜かず取り組むことのできる人はぐんと伸びる」ことを実感しているからです。

物事に真剣に取り組むことのできる人は、特定のことにだけ頑張っているのではありません。その取り組み方は何に対しても出てきます。些細なこと、例えば「靴をきちんとそろえる」とか「雑巾をきちんとそろえてかける」というような、ほんの数秒しかかからないことは当たり前のようにできます。逆にそんな些細なことすらできない人に、本当に真剣に取り組まなくてはならないこと、根気強く取り組むこと、粘り強く取り組むことができるのでしょうか。

部活動でも上手になろうとすれば当然、苦しいことにも粘り強く取り組み、乗り越えていかなければなりません。でも、些細なことですらできない人には「いい加減さが出る」のです。苦しくなると手が抜けてしまうのです。だから、挨拶ができない部に強いところはありません。整理整頓ができない部に強いところはありません。服装の乱れている部に強いところはありません。ほんの数秒でできる些細なことですらできないのに、練習のつらさや苦しさを乗り越えることはできないからです。

20年前、30歳代になった私（当時3年生担任）に当時の3学年主任は次のような話をしてくれました。「落ちている雑巾の数は、そのクラスの入試に失敗する生徒の数と不思議に一致するぞ。雑巾かけから1、2枚落ちたままの雑巾、落とす本人も不注意だが、落ちた雑巾をそのまま放っておくクラスも同じこと。そんなクラスのムードは一緒に伸びようとする気運に欠ける。受験は団体戦。クラスみんなで取り組むものだ。」その学年主任も先輩から聞いた話だそうです。つまり、これは何十年も受け継がれてきた教師経験に基づいた理論なのかもしれません。



北栄町家庭教育 12か条

9月「子どもは大人の鏡

～社会のルールは大人が見本～」

指導の心がけ

ずいぶん前の話になりますが、私は大学までサッカーをしていたこともあり、縁あって2014年女子サッカーU17のワールドカップで日本チームが優勝したとき、日本チームのコーチとして指導しておられた境港市出身の大部由美さんのお話を聞いたことがあります。先日も米子市に創設された中高生の女子サッカークラブの監督に就任したと報道があったことは記憶に新しいと思います。

そのお話の中で、特に印象に残ったのが、指導のときに心がけておられる次の3つでした。

指導は、**迅速に Quick** その時を逃さず迅速に行うこと。子どもたちの記憶が明確なうちに指導すると効果的である。

指導は、**単純に 明確に Simple** 何を、どうすれば良いか簡潔かつ明確に伝えると効果的である。

指導は、**的を絞って TO the Point** あれもこれも盛り込まず的を絞って指導すると効果的である。

指導する場面や内容が限りなくあるサッカー指導者としての生活の中でたどり着いた結論だと思えます。この3つは私たち教職員にとっても保護者の皆さんにとっても共通する「指導の極意」のようなものだと思うのです。

※ホームページで日々の学校生活の様子を紹介しています→<http://cmsweb2.torikyo.ed.jp/daiei-j/>